

生徒が主体的に価値観を交流する情報モラルの実践

大阪府立東百舌鳥高等学校 勝田 浩次 稲川 孝司 北野 堅司

高校における情報モラル教育のより一層の充実が求められている。本発表では、情報モラルをコミュニケーションの問題と捉え、「ネット上でのコミュニケーション」をテーマとして、生徒に互いの価値観を交流させ、個人情報の公開範囲について考えさせた実践について報告を行う。また、生徒の「考えたこと・学んだこと」を記述したポートフォリオから、この実践がネット上でのコミュニケーション、特にプライバシーリスクを考える際にどのように役立ったかについて考察をする。

1. はじめに

近年、高校における情報モラル教育のより一層の充実が求められている。昨年度の総務省の調査^①によれば、青少年の91.5%がスマートフォンを持っているという結果が出ている。1日あたりの使用時間に占めるSNSの割合が平均72.6%という結果もでており、誰もが好きな時に、好きな場所で情報発信できるようになった反面、SNS利用に関する懸念が多く指摘されるようになってきている。総務省はこの状況に対して、「青少年がインターネットを安全に安心して活用するためにはインターネット・リテラシーの向上が急務」と警鐘を鳴らしている。

2. ネットワーク上でのコミュニケーションにおけるプライバシーリスクの課題

インターネット・リテラシーの中でも、青少年のSNS上への不適切投稿や、SNSでの投稿による個人情報の流出は特に問題視されている。例えば、線路やコンビニエンスストアの冷蔵庫に忍び込んだ様子を写した写真をアップしたり、自身や友人の写真を実名付きで晒したりするなど、青少年のプライバシー・個人情報への危機管理がずさんであることがわかる。昨年度のILAS(Internet Literacy Assessment indicator for Students: 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標)の結果によると、プライバシー・個人情報の流出、不適切公開などの「プライバシーリスク」の項目における正答率は、全7項目のうち、2番目に低い結果となっている。SNSの投稿を始めたとして、ネットワーク上でのコミュニケーションによる事件は後を絶たず、特に、プライバシーリスクにおける課題については高校でも取り組む必要があると考える。

3. ネットワーク上でのコミュニケーションを教える上で大事なこと

こうしたネットワーク上でのコミュニケーション

の問題に対して酒井ら^②は、「情報モラル教育においては子どもの行動変容を促すことが重要であり、危険性を知識として子どもたちに伝える情報モラル教育だけでは、危険性を理解できるものの、問題への意識や自覚を持ちにくいいため、自身の行動を見直すことにはつながりにくい」と指摘している。また、自らの価値観で行動を決定するのではなく、多様な価値観に触れ、当事者としてトラブルにつながる行動の自覚を促す必要があることにも言及している。例えば、個人情報などのプライバシーリスクにおいて、SNS上での書き込みで他者のことを記述する際に、自分では「大事な情報ではない」と思っていることが、「相手にとっては大事な情報である可能性がある」ということが想像できるか?という問題である。本実践ではこの点に着目し、生徒が主体的に自らの考えや価値観を他者と交流させ、多様な価値観に触れることで、プライバシーリスクの問題について考えてもらうことを目的とし、教材を作成した。

4. ネットワーク上でのコミュニケーションにおけるプライバシーリスクの課題について考える教材

ここまで述べてきたことを整理すると、情報モラル教育、特にネットワーク上でのコミュニケーションにおけるプライバシーリスクの課題について取り扱う際に、必要なことは次の3点である。ひとつめは、知識として危険性を伝えるだけではないこと。ふたつめに、自身の行動を見直すことにつながるよう子どもに考えさせること。最後に、行動を見直すきっかけとするために、他者と自分の価値観の相違に気づくような機会を与えること。これらの3点を意識して、「どこまでが個人情報?」という教材を作成し、授業を実施した。

4.1 「どこまでが個人情報?」

ここからは、作成した教材と、想定した授業の流れについて述べる。まず、授業では、図1~3の

ワークシート、情報カード、まとめシートを用いる。生徒は5~6人のグループになり、進めていく。

クラス: _____ チーム名: _____ メンバー名: _____	
知られてもよい	知られたくない
高	低
知られてもよい度	知られたくない度
低	高

図1 ワークシート

自分の名前	住所 (〇〇市まで)	友達の名前
クラスと出席番号	血液型	
高校名	生年月日	
担任名	中学校名	
LINEのID	〇〇期生 (何期生か)	
LINEの友達一覧	Twitterの発言一覧	
みんなで撮った 集合写真	親友との写真	

図2 情報カード

まとめシート
組 _____ チーム _____
個人情報を扱う際に考えるべきことは・・・
[]
なぜなら・・・
[]

図3 まとめシート

生徒が SNS によく書き込みそうな情報をまとめたものが情報カードである。この情報カードを切り離し、トランプのように、一人に1枚ずつ配布する。配られた生徒はワークシートのどこにその情報が当てはまるかについて考え、1枚ずつ順番に配置していく。その際に、なぜ自分がそこに情報カードを置いたのかという理由を添えて置く。

ワークシートには、(ネットを介して他者に)「知られてもよい」「知られたくない」の二軸が書かれており、さらに「知られてもよい度・知られたくない度」の重み付けができるようになっている。生徒は、自分の情報カードを、どちらにどれくらいの重み付けをして置くかを考える。この時は「他者の価値観に触れる」ため、一切批判や意見は言わないように指示する。

一通りカードを置き終わった後、自分の意見と違うところ、自分ならここに置くというカードについてグループで話し合い、納得したら動かしてもよいということにする。全てのカードについて、配置の修正が完了すれば、最後に「まとめシート」に、一連の活動を通して、個人情報を扱う際に考えるべきことを記載させる。

表1 想定した授業の流れ(50分)

時間	内容
5分	ワークシートや情報カードなどの使い方について説明 情報カードの配布
2分	情報カードの配置について一人で考える
10分	一人1枚ずつ理由を述べながら情報カードをワークシート上に配置していく
10分	意見が分かれた部分について、話し合いをする
5分	まとめシートに「個人情報を扱う際に考えるべきこと」を理由とともに書く
10分	ワークシートの配置と、まとめシートの内容をもとに全体発表
8分	考えたこと・学んだことの記入

5. 生徒が「考えたこと・学んだこと」

授業後の生徒の記述からは、「自分がいいと思うことと他人が良いと思うことは違うということ。私は、これはいやだと思ったものも、友達知られてもいいところにおいてありました。だからしっかり確認をとることはもちろんだし、自分も個人情報は守らないといけないうこと。」(を学んだ)といった記述が見られた。

このことから、他者との価値観の交流を通して、プライバシーリスクの観点で自身のネット上の行動について改めて考えさせられたのではないかと考える。

参考文献・引用・参考サイト

- 総務省総合通信基盤局消費者行政課, 平成 27 年度 青少年のインターネット・リテラシー指標等, http://www.soumu.go.jp/main_content/000385926.pdf (2015.6.30 確認)
- 酒井郷平、塩田真吾、江口清貴、「トラブルにつながる行動の自覚を促す情報モラル授業の開発と評価 -中学生のネットワークにおけるコミュニケーションに着目して-」、日本教育工学会論文誌 39 号、89-92、(2015)